

図版③

「祀三公山碑」は、また「大三公山碑」とも呼ばれる。18紀末に発見された。馮という長官が、干ばつなどの災害に見舞われた当地のために「三公山」に対して祈りを捧げたことを示す碑文である。河北省元氏県封龍山千仏洞の漢碑堂に安置されていると(図5)。原石写真を見るに、碑額などではなく素朴な作りである。十行からなり、

一行あたりの字数は、十四字から二十三字までありばらばらである。巻頭に「□初四年」の紀年が記されていることから、後漢の「元初四年」とされてきた。書体は、篆書から隸書への過渡期の状況を示していると言われている。篆書特有の抑揚の少ない曲線は、余り見られない。直線が多く、所々に右下に力強く押し出す筆画が見られる。

に大きい文字は、小さい文字の二倍ほどである。巻頭と巻末では書風が、やや異なる。後半は刻し方にもよるのであろうか、伸びやかである。左の主圖版は、巻頭　巻末から數文字を選んだ。清朝後期の鄧石如（図④）を始めとして多くの人々が、この碑の古くて力強い書風に魅せられ、大いに学んでいる。

図版② 「祀三公山碑・整拓本」



元初四年(117)
(後漢時代)

祀三公山碑

旧い書法様式の刻石②



図版⑤「祀三公山碑原石」

(図③) 一三のよ
うな画数の少ない
文字の最終横画の
終筆を右下に押し
出している。「石
門頌」の「命」字
の縦長の最終画に
共通する装飾であ
る。また文字の
大きさも変化に富
んでいる。図版に
③に見られるよう

次号は、「嵩山三闕銘」です。この欄に
関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。私宛に直接メール
で、また編集部宛にお送りいただければ幸い
です。

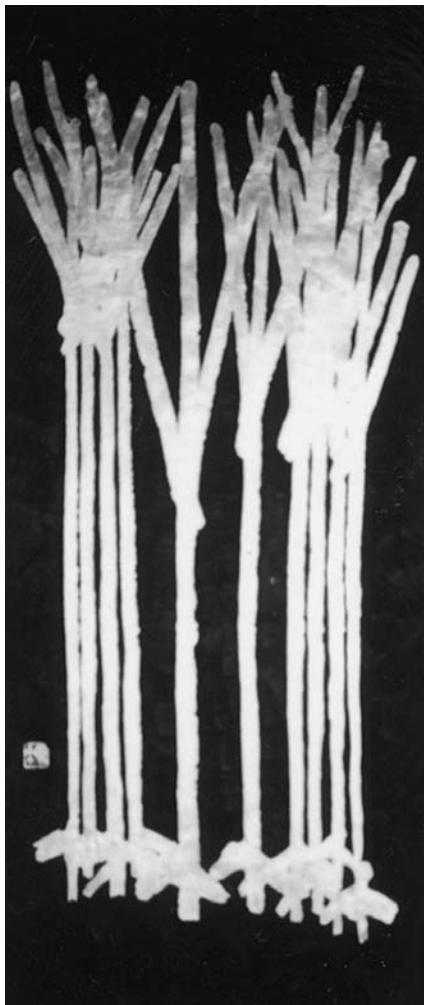
図版① 「やや縮小」 山相隴西



紀焉



書道芸術院 平成の群像 (2012)



「林」 平成12年毎日展

私の書の半生は何にても
まだ續く、これからも
終りのない道を私は歩
き続ける。

きざまを表現しようと
することこそ書を教ぶ
性を尊重し創造し合う
書道芸術院で過し得た
私の書の姿勢ではないかと
思う。それぞれの芸術
性を尊重し創造し合う
換え難い財産である。

文字通り40の手習い。40半ばにして
書をはじめて40余年。さほどの決意も
ないままにはじめた書だったが偉大な
師に出会い多くの書友に支えられ、書
抜きには考えられない私の半生になっ
た。

香川峰雲先生のこと

先生のお昼の食事は私の家内が用意
をして私が持参した。粗末な食事だつ
たが先生は「うまい、うまい」と召し
上がって下さった。泊る宿も上等な宿で
なくとも良いとおっしゃって私の懇意
な小さな宿にお連れした。

宿の主人は「あんな偉い先生は、う
ちにお泊りになる方ではないので、よ

その宿に案内をしたら」と言い出す始
末。それでも先生は次回もその宿を指
定され福島での定宿にされた。主人が
包丁を握る小さな宿だが先生の好物と
知ると主人が鍋ごと先生の室に運ぶ程
になり、先生が春蘭先生と東北を廻ら
れる機会があって福島での宿はその宿
を指定されお一人で泊られたこともあつ
た。

私達に負担を掛けまいとする先生の
お心が痛いほど身に沁みたことだった。
中央書壇であれほど高名な先生が、
講習会では受講者の「ノミ」を黙々と
砸いて居られた後姿はいまでも私の脳
裏に深くきぎまれ、以来私が生きて行
く道しるべになった。

「芸術する心」これも峰雲先生がおっ
しゃった忘れ得ない言葉であり、美し
いものを美しいととらえる感性こそ創
造の力だとと思う。思考

思いつ」と



小山鳳来

ある時は電車で、時にはご自身で車を

運転して来られた。刻字の講習会は公

民館や地区の集会所が多かった。

先生のお昼の食事は私の家内が用意
をして私が持参した。粗末な食事だつ
たが先生は「うまい、うまい」と召し
上がって下さった。泊る宿も上等な宿で
なくとも良いとおっしゃって私の懇意
な小さな宿にお連れした。

宿の主人は「あんな偉い先生は、う
ちにお泊りになる方ではないので、よ

その宿に案内をしたら」と言い出す始
末。それでも先生は次回もその宿を指
定され福島での定宿にされた。主人が
包丁を握る小さな宿だが先生の好物と
知ると主人が鍋ごと先生の室に運ぶ程
になり、先生が春蘭先生と東北を廻ら
れる機会があって福島での宿はその宿
を指定されお一人で泊られたこともあつ
た。

私達に負担を掛けまいとする先生の
お心が痛いほど身に沁みたことだった。
中央書壇であれほど高名な先生が、
講習会では受講者の「ノミ」を黙々と
砸いて居られた後姿はいまでも私の脳
裏に深くきぎまれ、以来私が生きて行
く道しるべになった。

「芸術する心」これも峰雲先生がおっ
しゃった忘れ得ない言葉であり、美し
いものを美しいととらえる感性こそ創
造の力だとと思う。思考

し悩み苦しみ自己の生

きざまを表現しようと

することこそ書を教ぶ

真の姿勢ではないかと
思う。それぞれの芸術

性を尊重し創造し合う

書道芸術院で過し得た

私の書の半生は何にても

まだ續く、これからも

終りのない道を私は歩
き続ける。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

全日本書道連盟「夏期書道大学」 講習会・講演会などへの助成事業

◇恒例の全日本書道連盟主催の「夏期書道大学」が本年も開催される。

* 日時 平成24年8月3日～5日

* 会場 池袋サンシャインシティ

コンファレンスルーム

講座内容等は別掲ご案内を参照。

初日8月3日午後は下谷洋子院常務理事がかな実技講師を担当することになつている。



青山杉雨書「萬方鮮」

◇連盟の主要事業に都道府県、市町村単位の書道講演会・講習会などへの助成事業がある。○○県書道協会など広域組織によるものに限られるが、県単位で一件10万円、市町村単位で5万円の助成が受けられる。詳しくは連盟会報または直接連盟事務局にお問い合わせを。連盟役員会員の有無は問わない。

* 公益社団法人全日本書道連盟

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-1
4-8 エルヘンビル4階

64回毎日書道展特別企画
「熊谷恒子の世界」

* 書道展等への後援事業、賞状交付は無料で行っている。ご利用を。

毎日書道展草創期における女流かな書の第一人者として功績を遺した熊谷恒子の生誕110年を記念して開催される。

東博特別展「青山杉雨の眼と書」

本企画展は6回目となる。
* 会期 7月11日～8月5日

* 会場 国立新美術館毎日展会場

生誕100年記念「青山杉雨の眼と書」展が東京国立博物館平成館にて開催される。同館で現代書家の個人展が開催されるのは「西川寧展」(平成14年)に次ぎ2人目。

同展は、第一部「青山杉雨の眼—中国書跡・中国絵画」、第二部「青山杉雨の書」、第三部「青山杉雨の素顔」

の三部構成となっており、内容的には同館が遺族から寄贈を受けた代表作や、コレクションを中心に、合計350件が公開される予定。(一部展示替えあり)
* 会期 7月18日～9月9日

* 特別講演会 7月22日 10：30～
講師 東京国立博物館 島谷弘幸副館長

* ギャラリートーク

7月21日 13：00～ 展示会場
7月28日 13：00～ 展示会場

「挑む・金子卓義の書」 銀座和光

2006年3月、惜しまれつつ早逝された金子卓義氏の没後七年に当たる本年7月に、銀座和光にて「挑む・金子卓義の書」というタイトルで作品展が開催される。あえて遺作展と謳わないこの展覧会は現代に生き続ける作家「金子卓義」の生き様、書にかける情熱を再び蘇らせる想いからであろう。

* 会期 7月21日～29日
是非ご高覧いただきたい。

* 会場 銀座和光ホール
7月23日～24日・25日 (辻元担当)
* ギャラリートーク

赤平泰処・飯島春美・石飛博光
中原太流・大立祥玉・鬼頭墨峻
高野早苗・玉村舞山・辻元大雲
仲川恭司・中村雲龍・永守蒼穹
船本芳雲・堀 吉光・増子哲舟
柳碧蘿・山中翠谷・吉川壽一

金子卓義を偲んで 一期一会 すみよい 展

和光での「金子卓義展」に協賛して以前の仲間が再結集して開催する書展。

* 会期 7月21日～29日

AM 10：00～PM 6：00 (最終日～16：00)

* 会場 ロイヤルサロン

銀座5-8-1 サッポロ銀座ビル8階

* 出品者 金子卓義 (遺作)

赤平泰処・飯島春美・石飛博光

中原太流・大立祥玉・鬼頭墨峻

高野早苗・玉村舞山・辻元大雲

仲川恭司・中村雲龍・永守蒼穹

船本芳雲・堀 吉光・増子哲舟

柳碧蘿・山中翠谷・吉川壽一



金子卓義書「寓」

前衛書 (四)

津田海仙

書の厳しさ

師、浜谷芳仙先生が書風を変えられた頃のことを思い出し、先生のお叱りを受けることを覚悟しながら書かせていただく。嘗て、先生は特注の刷毛のような筆で、墨は塗料、紙は必ずま紙。これらを駆使して作品を制作しておられた。展覧会に出品する作品の制作中には、「おい、これはどうだ」と先生の試作を見せられた。瞬間に絶句。真っ白な紙に何とも言えぬ墨色。あざやかな筆線に墨色が不思議にキラキラ輝いている。「スゴイ」と言ったあと汗が吹き出てくる。先生は「ニヤリ」と笑つてここにたどり着くまで様々な苦労を

してきたのだよ。ついでに先生の想いを、これまでの苦労話を少しでも聞こうと思ったが、怖くて言い出せなかつた。先生のアトリエには、真新しい特注の筆がずらりと並んでいる。書風を変えることは、並大抵のことではできなきことと言わずと物語る。確固たる信念（思想）を持って追求し、一步でも前進して行こうとする師の無言の教えではないかと思った。失敗に挫折せず、実践してけばいいかは一筋の明かりが先が見えてくる。



津田海仙書

21世紀の書

—私の主張—



第63回書道芸術院展「白い世界」

齊藤理舟書

現代詩文書 (四)

齐藤理舟

最近の題材として、作家によるもの他に、自分の言葉を書く事が多くなりました。著作権の問題が厳しくなった事もありますが、自分が感動したその時の気持を、自分の言葉で表現した事もります。しかし、その感動を書作品として作りあげることは、今の自分にはとても難しい作業です。どの様な表現をすれば、自分の感動を伝える事ができるのか？素朴に？力強く？爽やかに？等々、思いは多くあります。ですが、線質、字形、墨色、構成等々関連要素が多くあり、どの要素を組み合わせるかは、今までに蓄積された、基本技術に、やはり蓄積された良い物を見る目から生まれた美意識をプラスすることによって、作られてゆくものであると思います。色々と考えを書いてみましたが、私の現実は、かなり直観的なところがあり、書こうとする言葉を二、三例決めておき、草稿も作らず、とりあえず書いてみます。色々試作し、自分の気持を少しでも現わす事が出来そうなものを作品としています。写真は、真冬の北海道を旅した時の思い出を書いた物で、静まり返った白い世界で、動くものは横から吹きつける雪だけであつた…という作です。

第63回書道芸術院展「いのちの叫び」

「日頃、心掛けていた」と

栗 原 信 子

(かな部・審査会員)

私が書と出会ったのは、多分、高校時代の書道の授業だったと思います。

兄弟六人で両親は子育てで精一杯。

お稽古事は経験ありませんでした。書道の授業で「土筆……」と短冊にかなか書いていました。その短冊を教室の後ろの壁に貼っていただきとてもうれしかったことをはっきりと覚えています。

その後暫く、書とは離れておりましたが、子育ても一段落して、新宿区の「初心者教室」に行くようになります。そして友人から下谷先生を紹介して頂く幸運に恵まれ、丁度、先生が東京

中野にお教室を開かれたのを機に、入れて頂きました。初めてお手本を頂いた時には、すぐにでも書いてみたい心

踊るようなうれしさでお手本に見入りました。

でも実際に書いてみると思うようにはとても書けず自分のイメージとは全然違った私流になってしまいました。

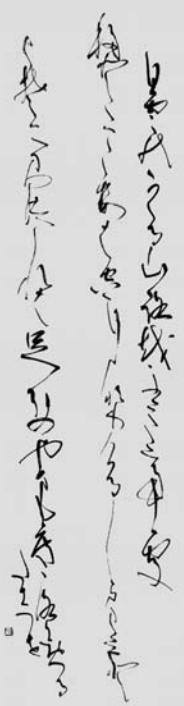
下谷先生から「かな」だからと言つてやさしい柔らかい線ばかりでは強さが出ない、漢字の筆遣いを学び古筆を学ぶことが大事だということを教えていただきました。古筆は臨書が大事ですね。臨書ではひたすら真似するのではなく、行がどう成り立っているのか、

前の行が次の行を作る。右の行を受けた濃淡、字の張り方、字の大小等を見て考えて理解しながら書く。そのためには全体を書かずに一行、二行がどう成り立っているのかじっくり勉強することなど、何回も教えて頂きました。創作の時もこのことを自分の心に言いい聞かせるようにしています。古筆の臨書、さらに進んで倣書、創作、そして漢字。勉強することは沢山あります。苦しいことも、悩むことがあります、楽しみもあります。

かなの作品には、万葉集や新古今集、古今集などから歌を選ぶことが多いです。歌の意味が理解できたらもっと樂しいのではないかと思い、以前万葉集の教室にも参加したことがあります。

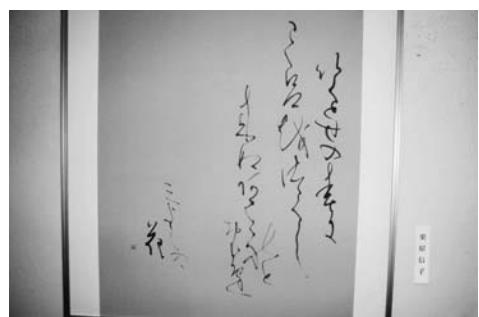
時代背景、枕詞、文法等、私には難解なことばかりでした。右から左へと頭から通り抜けてしまいましてが興味深く聞いたことを覚えています。

この四月から「万葉集、魂の宿ることば」というラジオ放送があります。以前、北陸の高岡へ行きました。高岡は大伴家持が越中国守として赴任したこところです。「高岡市万葉歴史館」では、整備された歴史館として天平万葉の世界を楽しむことが出来ました。また奈良の明日香の里を自転車でまわり集ゆかりの地に思いを馳せたことも思い出します。



第61回書道芸術院展 準大賞「白雲のかゝる」

栗原信子書



2009年書壇受賞に輝く作家展
東京セントラル美術館にて

たとえばおかしいのですが、スポーツでもボールを遠くへ飛ばそうと力を入れると結局飛びません。何をするにも「力を抜く」ということが良い結果を出すための欠かせないキーワードではないでしょうか。最後の一枚だからと力を入れて書くといつも失敗になります。

下谷先生をはじめ、大勢の皆様からご指導頂きお陰様で審査会員という身に余るご推挙を頂きました。心から感謝これからも一層精進してまいりたいと念じております。

書道芸術院創立65周年記念

役員作品巡回展

併催 九州支局展

会期 平成24年6月5日(火)～10日(日)
会場 大分市アートプラザ2階アートホール

実行委員長（九州支局長）

牧 泰 潤

「作品に品がある」「墨色がいい」「この作品展は雰囲気が違う。簡素でありませんが、作に重みと主張がある」「今まで観てきた展覧会の中で変化に富み一番よかった」「表装もいい。布の単色もオシャレですよ」「力まずにスープと心に入ってきた」と等々。ご来場の方、平常辛口の先生、具眼の先生からうれしいおほめの感想をたくさんいただいた。専門家から児児までの約400名の方々は各人各様の想を持ってご観賞下さったことと思っている。

役員作品は歴代会長の5点を中心配置して恩地会長作からパンフ順に、アートホール（2F）にゆったりと展示。同階に第63回全国学生書道展入賞作（137点、大分県内3点）を展示。同時に受賞者名簿や募集要項を拡大コピーして掲示したところ、出品方法を見



大好評のDVDコーナー



財団役員の先生方と



小竹先生の作品解説

V Dコーナーを設置し、5年毎刊行の「院展作品集」既刊の「書道芸術」「秋季展作品集」を展示。院の永い歴史と活動の宣伝に務めた。就中、作品展のDVDよりも辻元理事長の「四季の抒情」が動きや言葉・筆使いが見えていいと会員はもとより一般の方々に大好評を得た。

6／9(土)。本部より辻元理事長、小竹常務理事、小林理事、千葉評議員事務局長のご来場をいただき、作品解説会を会場にて約60名を前に開催。辻元理事長が歴代会長御作を背に院の歴史

や主張、書道界に於ける院の立ち位置等を和やかな中にも熱く語り「表現の幅の広さ発想力こそが院の強みであり、古典臨書も視野を広げるためである」と激励を込めた指導をくださった。

○目立つ書から読める書へ。自分の言葉を書く。文字をいじり面白いが格調が下がる気がする。(小竹先生)

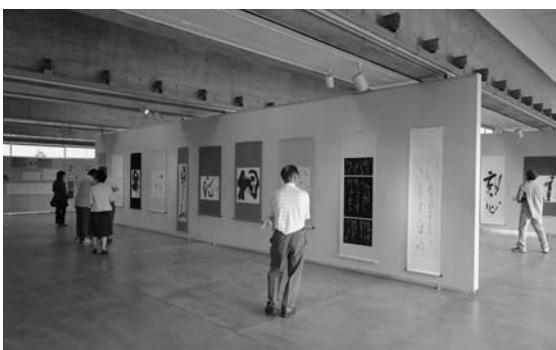
○墨色にこだわっている。何年もかけて貯めて墨づくりをしている。多字作品は超濃墨。紙はねかせる。(枯らす)ことが大切。(小林先生)

○書道は文字を素材に展開するが、前衛は読めるかどうかは問題ではない。



役員の先生方と質疑応答

≪ 支局展風景 ≫



理事長にほめられた会員



懇親会

黑白、空間が美しく残るのが前衛。読もうとしないことだ。(千葉先生)等々を中心のご指導をいたいた。辻元理事長の巧みな進行で来場者は笑顔になりながら大満足。

続いて市民ギャラリー(1F)へ移動。支局展は福岡大分の会員71名が86点を展示。4名の先生を中心にグループ毎に自作他作の前で親しく質疑応答をしていただいた。殊に小林先生の墨談義には20名ほどが聞き入っていた。

祝賀懇親会は足立大分市教育長、合田県美協会長、山本県美協書道部会長、西本皆文

堂社長、益野(毎日新聞西部本社事業部)様、佐藤(大分合同新聞文化科学部)様のご来臨と理事飯高和子先生、墨運堂様、一休園様より祝電をいただき、4名の役員の先生方と約50名で文字どおり懇親を深め、先生方に選んでいただいた作品10点の表彰をして終了。勿論二次会のパワーと楽しさは推して知るべし。

7／8(日)、反省と第18回支局展について事務局会開催予定。院70周年までに「百人二百点」の数値目標と九州全県に広がる夢を掲げて支局の活動と発展を期している。

日中文化人の書～日中國交正常化40周年記念

日本詩文書作家協会書展

心の故郷……そして今を書く

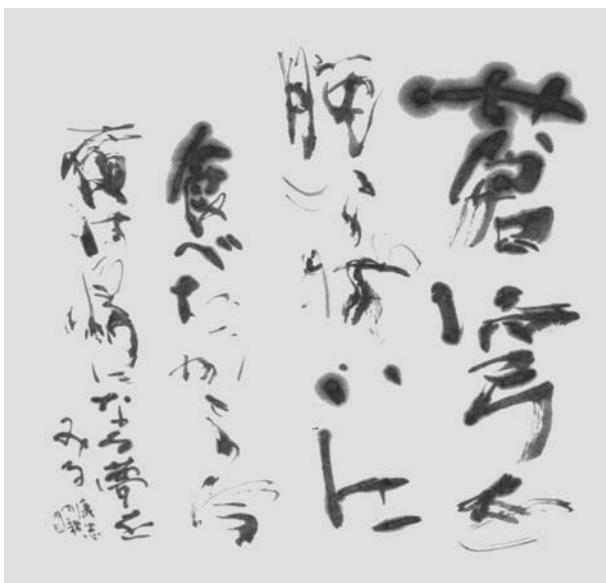
会期 平成24年6月5日（火）～10日（日）

会場 東京セントラル美術館

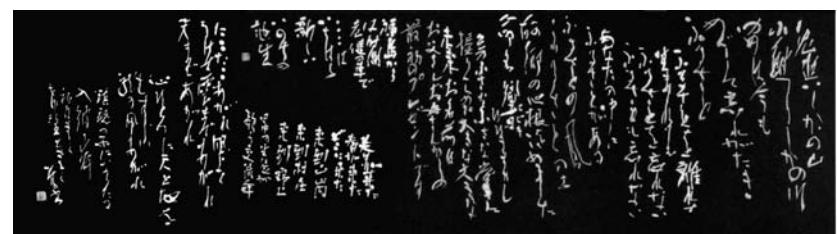
高野辰之 「故郷」



辻元大雲書



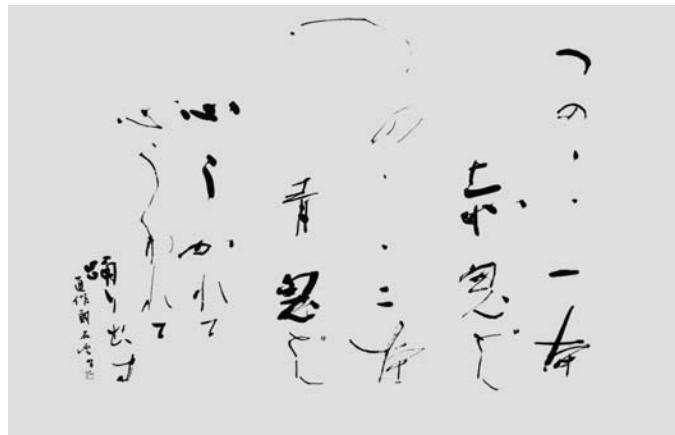
砂本杏花書



「自作（童謡三種引用）」

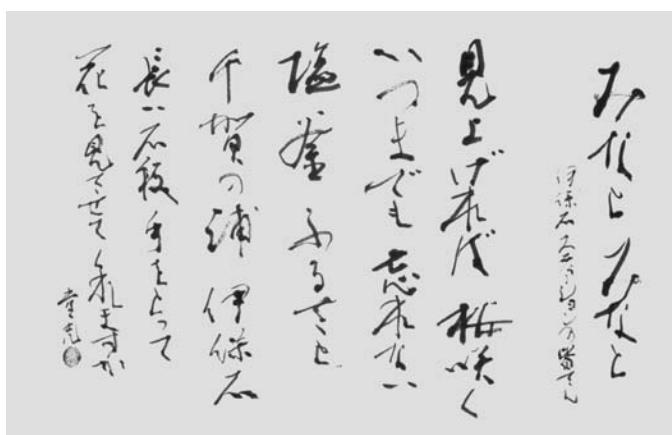


飯高和子書



加藤直作 「赤鬼と青鬼のタンゴ」

小竹石雲書



伊保石ステーションの皆さん「みなとみなと」 浜田堂光書

△院関係出品者名▼									
佐藤	牧	寺	小竹	青木	半田	上村	小竹	辻元	
奎山	絹舟	京華	正高	雪華	藤芳	棠石	大雲	大雲	
椎木	阿部	中島	佐久間	阿廣	瀬金	浜田	飯高	飯高	
山風	惠泉	翠臘	翠臘	舟麗	雲子	和子	堂光	和子	
小野寺	聿源	西岡	田中	及川	山熊	坂谷	砂本	砂本	
	雨瑤	扇溪							



自作 「故郷に立つ」

坂本素雪書

特別研究部臨書課題

II（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）左記の掲載以外も可

〈解説〉孔子廟堂碑は、唐の太宗が都の長安の国子監内の孔子廟の再建をした時に建てられ、虞世南に命じて碑文を撰し書かせたものである。

虞世南は、字を伯施といい、浙江余姚の人。

南朝末の陳の武帝永定二年（五五八）に生まれ

（陝西本と呼んでいる）

（編集部）

た。隋から唐に仕えた人である。書風は、温順典雅、内に剛柔を含むと言われ方をしている。

現在、陝西省西安市の碑林にあるが、建立当初

のものではなく、後に重刻されたものである。

（陝西本と呼んでいる）

（編集部）

（掲載部）

（掲載部）

（掲載部）

（掲載部）

（掲載部）

（掲載部）

（掲載部）

（掲載部）

<div data-bbox="733 477

毎日展公募サイズ以内・縦横自由
左記の掲載以外も可

〔注〕・かな研究部競書作品は、左の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。（全臨も可）
落款を必ず入れる。署名もしくは〇〇臨（押印のみも可）

・用紙は半紙普通判（料紙可）〈たて長に使用〉

別紙を裁断して貼付也可。半懐紙は、半紙サイズに切って使用のこと。

〈よみ〉

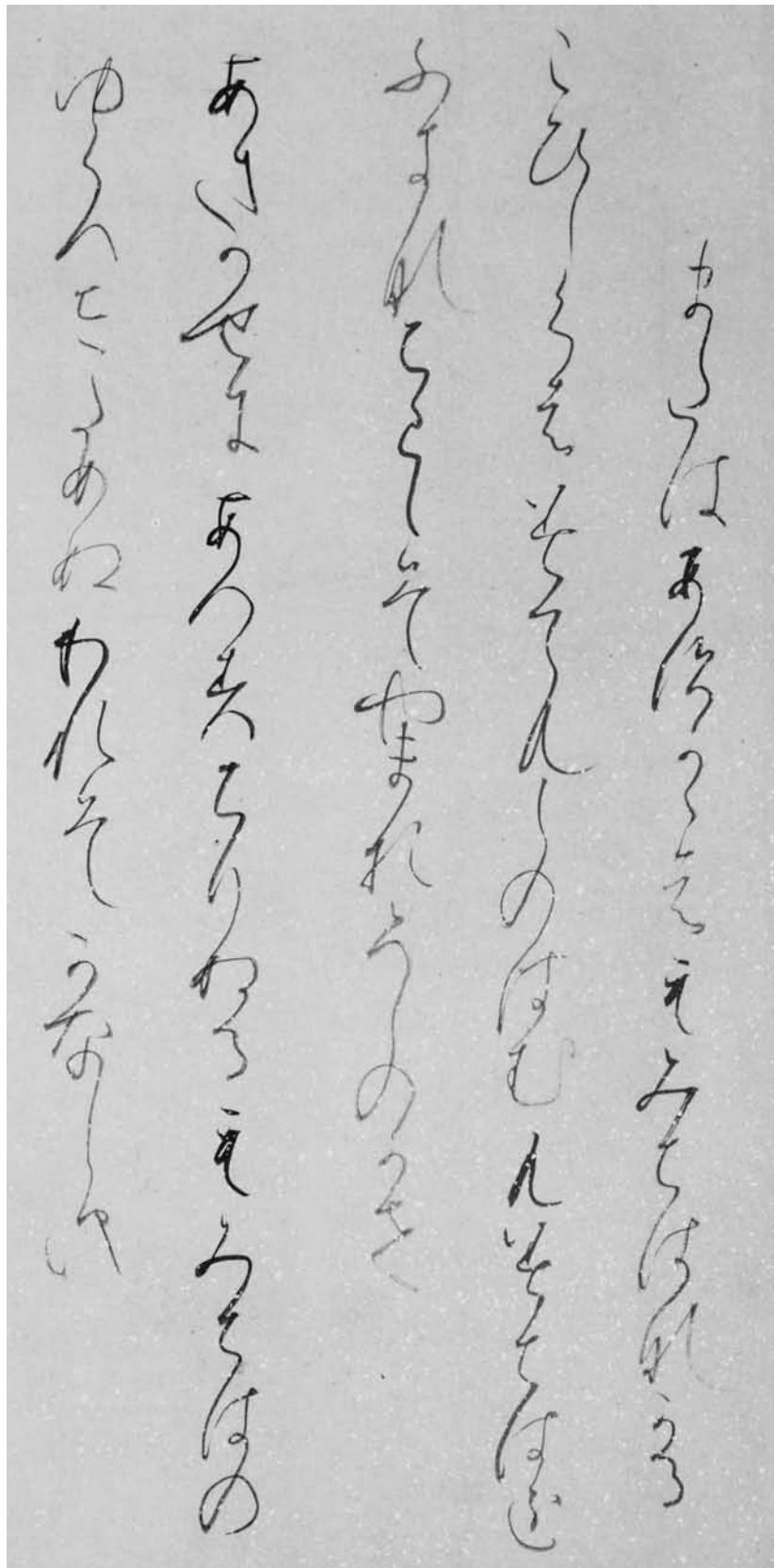
または、あすかゞ領可 者毛はもみぢば那可ながる

ふきなちらしそやま於可世おろしのかぜ可世
あきかぜ那可にあへず春毛ちりぬるもみぢば那可
ゆくへさだめぬわれぞかなしき

こひしくはみてもしのばむもみぢば那可を

〔解説〕 高野切第一種は、高野切の中でも最も個性的で、力強く莊重な趣の書風である。線は流麗さとは異質の、紙にくい込むような強い筆力で、じっくりと粘りながら進む。特に、側筆氣味に運んだ連綿の斜め線が印象的で、強く迫るようだ。沈着な書風を開闢させ、平安朝古筆を一覽してもきわめて個性的でユニークな存在といえる。筆者を紀貫之と伝えるが、現在では「平等院鳳凰堂色紙形」と同筆の源兼行の筆と確認されている。
(編集部)

(93%縮小)



半田 藤 扇

何日是歸年
(何れの日か是れ歸年ならん)

杜甫「絶句」結句

いつたいいつになつたら故郷へ
帰ることが出来るのであろう。

今回は、趣を変えて隸意をとら
えた雄大な横への広がりと、重厚
な線質で木簡調に書いてみました。
横線の引き方がポイントとなります。

始筆から加速した横画の線は、
鋒先が紙面にどの位接したらよ
いかいろいろと研究してみるとよ
いと思います。

そこには、スピード、圧力が大
変影響することでしょう！
また、木簡からの書風なので右
肩に丸みをつけるのも作品創りへ
の大きな力となります。

△参考B▽



何日是歸年 よみ(何れの日か是れ歸年ならん)

書体=自由



創作アレンジ

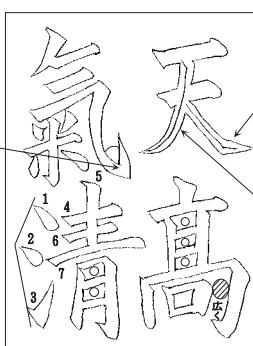
習い方解説 (四)

小林琴水

天高氣清
(天高く氣清し)

“はらい”、“ばね”は、筆まかせにはらつたり、はねたりしないで、ゆっくりと、広がった鋒先をまとめていく様に書くことに注意して下さい。

ゆっくりと筆を
とじるようにな
づりあげる
筆を持って行く
ようにはねる
筆のねじれ
を使う

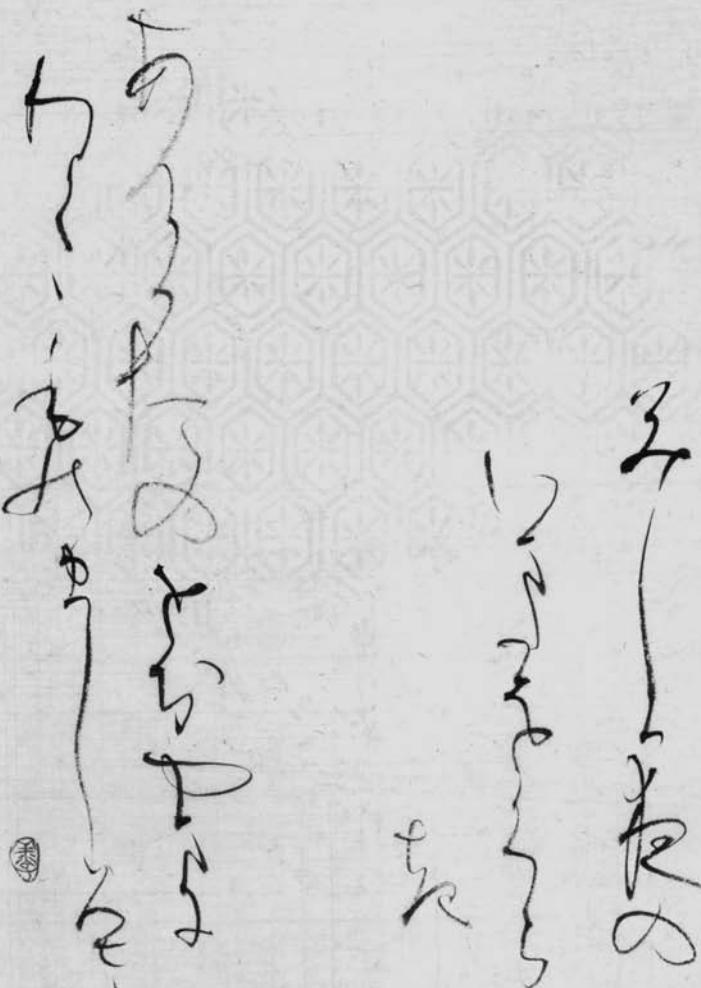


天高氣清 よみ(天高く氣清し)

書体=楷書

下谷洋子

みじか夜のいままだ小暗き明方の
とぼ山に湧く雲の真白さ
(若山牧水)



小字のかな用の筆を何本持っていますか?一本で何年も使っている方がいますが、筆先の命毛が切れたら寿命です。頻度にもよりますが、一ヶ月もてばいい方です。主な毛の種類は、イタチ・猫・羊毛・兼毫などですが、よく使われるイタチでもピンからキリまで、雌・雄、尻尾と言った違いもあつたりでかなり多彩です。形状も様々ですが、創作には柳葉筆か大きめの面相筆が適しているでしょう。

また、料紙との相性もありますから、とにかくたくさん使って自分の書き味のよいものを探して下さい。かなのは線はラインではあります。息を吹きかけるように運筆したときに、伸びやかな膨らみが出ることが大切です。

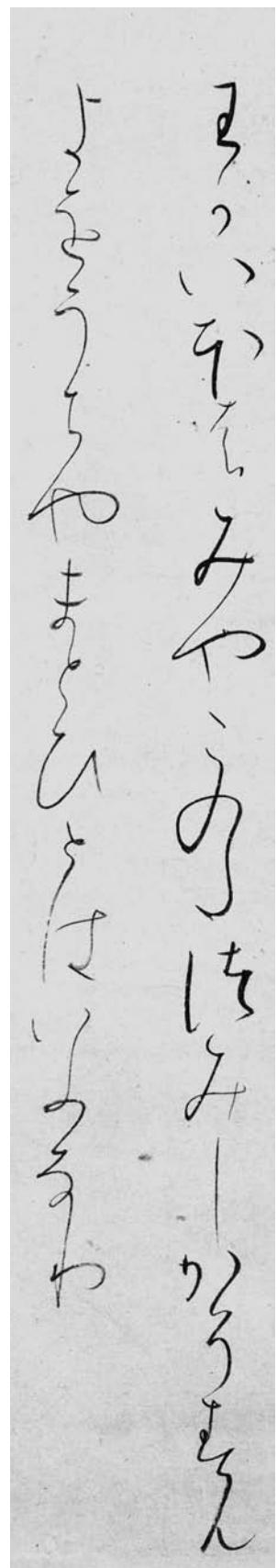
よみ方 み(美)じか(可)夜のいま(万)だ(多)をぐ(久)らき(起)あけ(介)が(司)たの
とほ(本)やま(万)に(尔)わく(久)く(ノ)も(毛)の(能)ま(末)しろさ

創作

かな規定 秀級以下 【八月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切 第三種
(掲載写真縮小93%)



よみ方 わ(王)が(可)いほ(本)は(者)みやこのた(多)つ(徒)みしかぞ(曾)す(春)む(无)

よを(うち)やまとひとはいふな(奈)り(利)

習い方解説 (一)

かな条幅規定【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

木村東舟選書

木村 東舟

かせた
風立てばすこしゆらぎて水草の
花めく夏の夕ぐれの星
(手謝野晶子)



よみ方 風た(多)てば(八)すこし(志)ゆ(遊)らぎ(支)て水草の
は(者)な(那)め(免)く(久)夏の(能)夕暮のほ(本)し

創作

一般的でシンプルな二行書きです。通常書き出しは小さめにし、墨量を控えます。文字の大小を組み合わせて変化をつけます。連綿に対しても考慮します。放ち書きの部分を作るなども考慮します。条幅作品を書く時は、筆圧を充分掛けられるよう、床で書くことをお勧めします。余白のとり方も充分考え、独自の魅力ある作品にして下さい。

*たて形式に限る

西林乘宣

回眸一笑百媚生六
宮粉黛無顏色

回眸一笑百媚生六宮粉黛無顏色
(眸を回らして一笑すれば百媚生じ、六宮の粉黛顔色無し。)

(長恨歌・白居易)

書体=自由



漢字条幅規定秀級以下【八月十五日締めきり】用紙小画仙紙半切

大野祥雲選書

習い方解説 (四)

大野祥雲

白馬も蘆花も白色で、区別がつかない。しかし、白馬はどこまでも白馬であり、蘆花は蘆花である。平等の中の区別をいう。

よく書かれる句です。筆の弾力を利かし、紙にくい込む線を心掛けました。画数の少ない入と逆の蘆については伸びやかに書き、疎密の対比を試みました。各文字に白を含ませ明るい作品にしたい。

白馬入蘆花
(白馬蘆花に入る)

(碧巖錄)

書体=自由

行書です。先号の楷書を少々くずしてみました。行書というのは特別の決まりではなく、わずかに虚画の一部を実画にするだけ、例えば「三」の場合、第2画の終筆を少し第3画に向かって撥ねればよいのです。例の古典といえば「枯樹賦」などを参考に。(大意—彼女が一笑すれば限りなく艶かしく、六宮に仕える美女達も色を失うほどであった。)

習い方解説 (四)

稻垣 小燕

われは海の子 向波の

さわぐいそべの 松原に

煙たなびく とまやうて

わがなづかゝり、住家なし

作詞・作曲者不詳 小燕書

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

のびやかに、大らかにと心がけました。

ペン字は読みやすく書くことを第一に考えて、一字一字を丁寧に正確に運筆することが大切です。

漢字やかな練習でしっかりと用筆を学んで、それを生かすようにしたいものです。ともすればペン字は細かいところをおろそかにしてしまいがちです。落着いた、清々しい、響きのある線、字間・行間の余白の美しさ、内容を理解し得た表現、そのような作品を書くことができたらどんなに素晴らしいことでしょう。

充分に書きこんでリズムに乗せて、豊かな明るい作品に仕上げましょう。

※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

ホープ作品
各部総評 No.613

漢字部 師範 小山内谷玲
 たっぷりとした豊潤な線質があり
 ズムよく動き、明るくさわやかな
 作。運筆の大きさが冴える。

◎漢字部総評 上級課題行草作が
 多かつたが、運筆のリズムに欠け
 る作多し。楷書でも同じだが筆脈
 の流れに自然な変化を。（大雲評）



かな条幅部 五段 真下美佐代
 丁寧な筆致で、落ち着いた趣が
 穏やかさを感じさせ好ましい。特
 に渴筆で中央を整え明晰さ出す。
 ◎かな条幅部総評 行間や文字の大
 小など、全体のバランスを欠い
 たものが多く残念。毎回ですが、
 変体がなには要注意！（洋子評）



漢字条幅部 師範 黒江 幸穂
 参考手本に忠実にとり組みつつ
 紙面構成上野線を入れる工夫を加
 えた。線質、字粒、墨色全て見事。

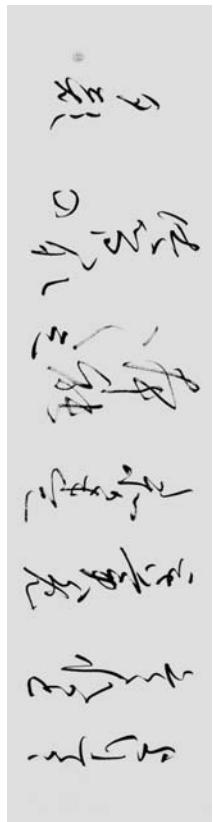


◎漢字条幅部総評 「まずは基本
 を古典で」と解説にあつたが参考
 手本から学んだ作が殆ど。「温故
 知新」を。（翠風評）



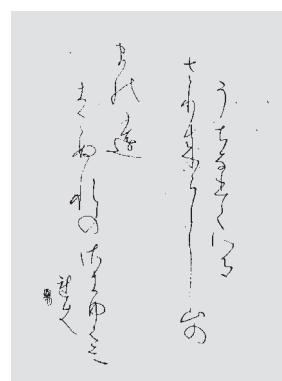
前衛書部 特選 渡見由紀子
 重心を左に置く大胆な構成と墨
 の濃淡による遠近感を効果的に使つ
 た感性豊かな作。

◎前衛書部総評 よくまとめてい
 るが消極的で心に響く作が少なかつ
 た。熱氣ある作望む。（蓮紅評）

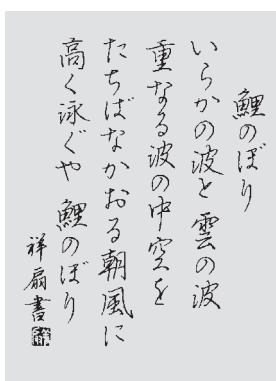


現代詩文書部 特選 奥田 喬柏
 練れた線質で、感性豊で丁寧な
 書ぶりの中、渴筆の力強い線が魅
 力的。

◎現代詩文書部総評 練度高く個
 性豊かな作が多い中で字形の造り
 過ぎには一考を。（無極評）



かな部 師範 重原 扇水
 手本をよく研究し、掌中にし、
 格調ある完成品とした力量に感服。
 ◎かな部総評 高度に手本に近い
 ものが多く喜こばしいが、創作が
 テーマの科目と認識して、主張の
 ある作品を期待します。（明子評）



ペン字部 師範 佐藤 祥扇
 紙とペンの相性は大切である。出品作の中には流れを重視するあまり細く弱いものも見られた。

◎ペン字部総評 紙とペンの相性は大切である。出品作の中には流れを重視するあまり細く弱いものも見られた。（蒼玄評）

いらかの波と雲の波
 重なる波
 高く泳ぐや 魚のぼり
 たちばなかおる朝風に

祥扇書齋

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

前衛書
(四谷)木原尚子

f1oat



90×105cm

篆刻
(大雲)佐藤希雲「雲從龍」



53×25cm

佐藤希雲刻



印拡大



- ◆久しぶりに篆刻を取り上げた。八分角二顆の小印ながら、刀の冴えと布字の確さを買う。落款やや軽い。
(大雲評)
- ◆白文は直截的で堂に入った作。対して朱文はやや繊細で縁が美しい。朱白で趣を違えた力作。
(洋子評)
- ◆朱文と白文を一对にして三文字の構成と線の表情を対称的にした熟慮の作。朱文印の辺縁が巧妙。
(萬城評)
- ◆朱文の「處」の線の変化が筆の廻転を偲ばせ、印面から浮いてくる感じがする。押印はさすがに綺麗。
(倫子評)
- ◆ゆったりとした心の動きを感じると共に力強い筆力の表現によって全体に纏りのある作品。
(萬城評)
- ◆切れ味よく又、ねばり強い線質で高貞碑の特徴をよくとらえている。安定した技術を更に創作へ。
(大雲評)

臨書 (墨宣) 松下紅月「高貞碑」



135×35cm

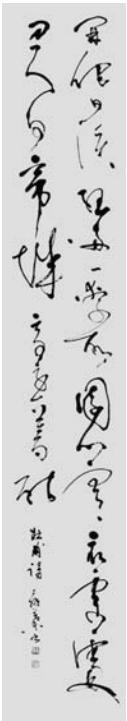
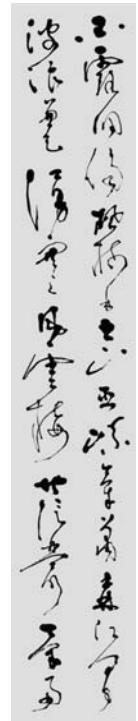
松下紅月臨

- ◆余白が書いた墨のかたまりを大きく見せてくしている。
(倫子評)
- ◆中央部に凝集させた構成が回りの余白と響き合いで、不思議な浮遊感を漂わす。淡墨の微妙な変化に味。
(大雲評)
- ◆墨色には五彩あり…を想起させる。敢えて回りを空け塊として墨を集め。情念を封じ込め意表を突く。
(洋子評)
- ◆非文字性の作品は、どこで筆を置くのが難しいと思う。濃淡のぼかしが魅力的。幽遠さを感じる。
(萬城評)



135×35cm

漢字（千葉）影山扇葉「秋興」



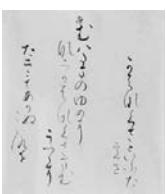
46×180cm

臨書

(A) 藤村昌子
「升色紙」

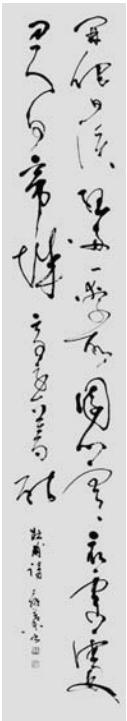
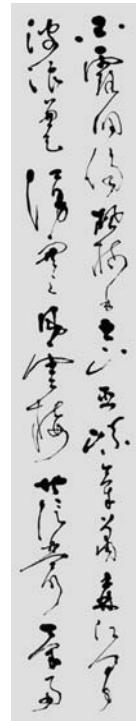


拡大



影山扇葉書

漢字（千葉）影山扇葉「秋興」



45×178cm

現代詩文書
(四葉)

千葉清翠「牧水のうた」



◆繊細で温雅な線で書かれた
連绵行草作品。大小、疎密、
潤渴の変化が自然で、品性的
高さを感じる。

（萬城評）
◆軽やかな中に巧みな筆の廻
転で全体の変化にリズムを感
じさせてくれる。墨の濃淡も
場を得てる。

（倫子評）
◆繊細で温雅な線で書かれた
連绵行草作品。大小、疎密、
潤渴の変化が自然で、品性的
高さを感じる。

（萬城評）
◆飄々とした中に滋味溢れる
霧廻気の作。懷素千金帖を彷
彿させる対聯作だが、もう少
し線の冴えがほしい。（大雲評）
◆懷素風の洒脱さが魅力。細
線の変化が小気味よく、字画
の間で飄々と明るい。大小の
にじみで締めた。（洋子評）

創作の部(56点)

漢字——10点

かな——4点

現代——20点

篆刻——1点

前衛——21点

臨書の部(29点)

漢字——27点

かな——2点

総出品点数
85点

〈特選候補者〉
(創作の部)

〔漢字〕
墨宣 鑄木 梅道
華祥 安藤 華祥
「かな」
卯月 前田まさ美

〔現代詩〕
蓮紅 大友 紅蓉
行徳 淺見由紀子
游水 荒川 空華
「前衛」
青蓮 大町 菜円
蓮紅 英峰 小林 咲舟
佐藤 千葉 桂香
桂香 大雲 朝倉
爽陽 雪卿
神谷 大雲

〔臨書の部〕
〔漢字〕
千葉 小林 咲舟
英峰 佐藤 千葉 桂香
桂香 大雲 朝倉
爽陽 雪卿
神谷 大雲

◆やや墨が薄かったが、ゆつたりと大様な
霧廻気を巧くつかみ、一点一点円やかなり
ズムが出ました。（洋子評）

◆樹色紙の奇抜で軽妙な構成美は強く、心が
惹かれます。原本の美を着実に追求した姿
勢を評価します。（萬城評）

◆三色紙の中でも一番軽妙なりズムの升色
紙をよくとらえている。細線部分にやや甘
さがある。更に努力を。（大雲評）

◆この細い変化の中に墨の濃淡を上手に表
現されている。心の統一がなければ出来な
いのではと敬服。（倫子評）

（倫子評）

千葉清翠書

漢字研究部
(高貞碑)

選評 小浜大明

今月のホープ作品



菊池白杏

漢字研究部 特選 菊池 白杏

高貞碑の特徴を良くとらえた見事な臨書です。引き締った線と結体の良さが安定感につながっています。特に起筆收筆、転折の用筆が立派です。尚、落款の字間にゆとりが欲しいと思います。

◎漢字研究部總評

高貞碑は「一見龍門風であるが、荒々しさ

はなく線質は穏やかである。」と解説にあるが如く端正で落ち着きのある楷書です。このような特徴を良く表現した臨書が数多く寄せられました。その反面、龍門風の臨書も少なくありませんでした。転折や收筆の造像記との違いを理解して臨書して下さい。又、「於」や「馬」などに見られる鉤(ハネ)の用筆をも理解し、軽く浮いた線にならないよう注意して下さい。



秀由竹初明
孝圃香雪江美

睦杉京久麗清
子谷仙子流耀

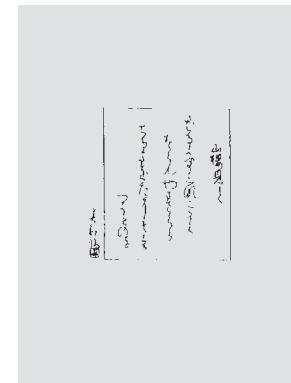
恵美登裕佳秀
佐子子子波皋

佳凌雅初百祥
月雲風香雲子

かな研究部
(升色紙)

選評 庄司紅邨

今月のホープ作品



塩澤 美紅

平安期のかな書の典型美とされる、墨継、連綿の妙を正確に表現しました。升色紙の美しさをよく醸し出している見事な作品です。

◎かな研究部総評

古筆勉強の基本は、文字、運筆、墨継の確認が大切ですが、初步の方に独自の解釈で書く作品が見られました。作品をしっかりと見、理解する事が大切です。

み美藤
さ知
ゑ枝玉

雲千炎

藤雅香

翠智加

卿峰秀

雪泉舟

綾広都

久正う松も高
賀華る村く秀
澄硯秀英 A 蘭顧生雲玉渡秀東高も千翠竹も竜紅昌紅苑玉
春水水峰 I 鼎綠大溪松辺明小崎く葉吟麗く泉瑤苑瑤書松
岩伊飯阿青青
作 宮佐福佐伊小志石仲橋田岩小新吉神長山新高須吉鈴小塩澤
渕藤高久木木
作 水橋西本口崎藤谷井橋田木野寺
み美
祥英幹隆啓理 幸雅歌桂美夷起さ游紅み洋さ知葉千炎藤雅香翠智加美紅
平芳子香子くら
子生華子

かな研究部成績表

こ明五石 A 泉し草一秀泉椿澄う枝大樹千た高梓蘭竹渡如竜さ玉玄高高土石澄
だ漢葉習 I 会汀草一水会翠春る阪原葉か崎江鼎扇辺月泉つ松象井真習氣春

吉吉真松藤永中富寺辻竹高進佐後近河河北川河鎌金加奥小大樫梅内白宇
野田庭丸村田瀬村澤辻 森橋藤藤野野村元崎岡田子藤宮川田村山田井井
千タ久
彩鶴ケ愛昌時春一惠悟洋弓幸香喜淑惠啓欣茱優星壽蘆龍美彩直和久皓綾楠
祥子ミ石子丁琴子子子苑萩子子子仙子扇藏城恵子香子子泉乃麗

高陵 入 墓北竜五千大澄前幕秀春帝紳秀春玉竜高蘭皓八竜竹紳 竜京N若詢生幕影鬼艸秀こ声こ聲 A 澄艸
和陸泉葉葉雲春橋張畠汀塚玄畠汀松泉陵鼎映街泉美玄 泉橋H葉扇大張 澄艸N八岩有
佳 作 春H戸沼秋

會木 選 若吉森森村堀深春林長櫻富筑田田泉住末重佐櫻櫻齊後近工工君北岸神鷹門大遠梅生宇植岩井犬伊市石
菜田田田切堀山 島塚尾澤井原中水吉林信々田田藤藤島村田田井脇石藤原方田木瀬井飼藤川崎川
由川 き元
勇介 矩四龍瞳笑幸清勝玉一絢等書宏恵耶龍和直裕町龍智絹良知松江山春惠東典紫信星華虹美春如祥玉道良紫正洋
子子博子華雲洗美華水子興夫子衣宝子子興華貞舟子泉子房蘭翠舟子子風子祥香子子香石佑泉子子

八八松 た昌湘東墨N昌高澄八や三宮高清構筑大正玄生東広 N英安大泉樹秀た前誠千う彩日正大椿 朱京仙千京八さ
生雲村 か苑南小友H苑崎春街ま鷹城崎月翠桜雲華象大向 島 H峰波阪会原明か橋和葉る 新阪翠 町橋台葉橋街つ

篠七鹿塩猿佐佐佐坂坂酒齋斎後後小小小小高木木菅菖川川川加片小小小奥大梅碓入今今伊石生安新雨阿熟太東足明
田條田崎渡渡藤藤々川本巻井藤藤峰林木口武原下池野本本田藤野野高山森津井谷閑藤川駒藤井宮部海立 助石
惠世木 美佳 美智 美知 美

美裕志明冬篁初詠薰紅み麗恵翠桂つ祥敬加嘉晃智玄輝都善靜南紫溫真美久萩西翠喜代 悠梨心敏嘉津萩代瑛美春桃万花実麗
子美江子華右香子子輝よ苑子香子え子子江代子城子子高代汀仙子澄代美光鈴峰代子弘花霞華子子花子美紗清翠琇子枝子
如白大京東青蓮清高白や澄硯 白高千正澄京高澄椿千八上洞秀椿大詢土高高士北正遊軒千五春玉翠泉佑青春高安正誠明弘う
遷外 220 繼度六吉吉遊大山山柳宮三松松増堀深平平林濱漬花橋橋野根丹西西永長中戸都渡遠近田田高高鈴神新嶋波瀧
名貴邊波田田佐和田崎口堀澤鴨村田重岡田川井澤山山 田田里本本村崎本羽澤岡井本澤村丸子山池野中橋野木保谷
由 み志 美喜 つ 美智 美喜 つ
名智重掌佑眞光紅紀明香律政草敏陽代翠律華魯法佳つ彩深陽竹智日都陽愛雅惠瑠悦宏久雅博ど紀希柳可梢千久章や佳翠林美典
子子玉子理治雅江子織子翠秋子子景子秀春子月子華翠一雪子和子詢菜子子美子枝仙子舟り子子芳三翠代子治子子光子子

「書道芸術」特別昇級試験 師範合格者模範作品

かな部 第三種

玉松 星野 紅咲

高野切第三種 臨書

梓江 河野 虚拙

高野切第三種 臨書

審査長
辻元大雲

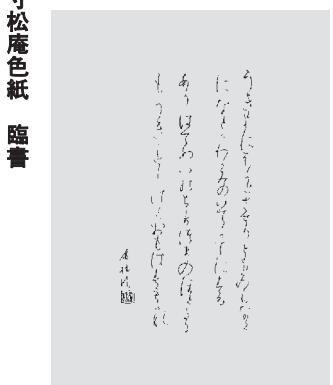
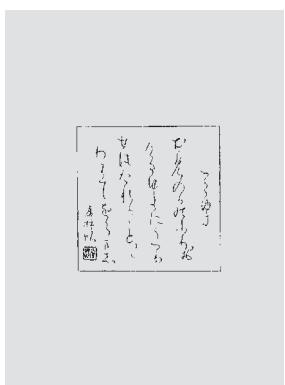
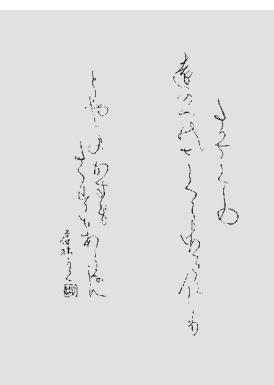
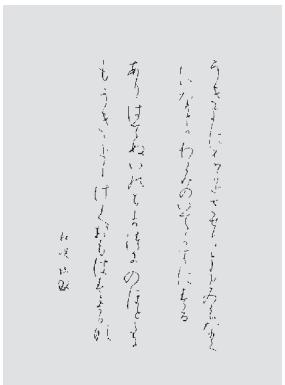
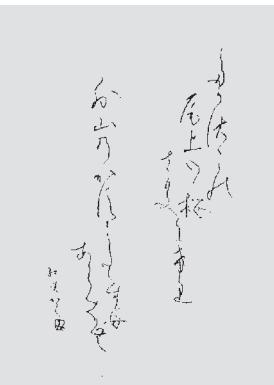
総評

寸松庵色紙 臨書

寸松庵色紙 臨書

創作

創作



恒例の春の昇級試験は、かな半紙と漢字条幅部門で三種試験、その他は二種まで例年通り行われ、受験者数は若干の増加となりました。前回も申し上げましたが、三種受験の準師範から四段の昇級は特に厳しく、原級留め置きの方が半数から八割近くとなります。古典臨書課題及び創作表現の試験内容は基礎力と応用力を試すもので、正に普段からの努力精進がなければ到達しないレベルです。漢字、かな、いずれも同じです。

秋の昇級試験では漢字半紙、かな条幅、ペン字の三部門で三種試験が行われます。しっかり学習を積み重ねて成果を得てください。

未曾有の大震災からはや一年余を過ぎながら、未だ復旧、復興も遅々として進んでいない状況ですが、少しずつでも世の中は落ち着きを取り戻しつつあります。「書道芸術」競書はや減少しつつも、毎月毎月皆さんの力作が寄せられ心強い限りです。書道芸術院展も六十五回記念展を三会場にて盛会裡に終了し、現在役員作品巡回展を開催中です。

恒例の春の昇級試験は、かな半紙と漢字条幅部門で三種試験、その他は二種まで例年通り行われ、受験者数は若干の増加となりました。前回も申し上げましたが、三種受験の準師範から四段の昇級は特に厳しく、原級留め置きの方が半数から八割近くとなります。古典臨書課題及び創作表現の試験内容は基礎力と応用力を試すもので、正に普段からの努力精進がなければ到達しないレベルです。漢字、かな、いずれも同じです。

秋の昇級試験では漢字半紙、かな条幅、ペン字の三部門で三種試験が行われます。しっかり学習を積み重ねて成

漢字条幅部 第三種

楷書 創作

八街 熊谷 桃華

一番風雨催寒食千
里鶯花想故園

桃華書

行書 集王聖教序 臨書

袖也易懷貞敏早悟三空

之心長契神情先芭四忍

桃華書

草書 書譜 臨書

袖也易懷貞敏早悟三空
之心長契神情先芭四忍

桃華書

漢字

各部短評

かな

（二種）
九成宮醴泉銘は楷書の中でも、「楷書の極則」と言われるよう最高のものです。それだけに難かしいが、

日頃から古典に親しんで勉強するようにして下さい。

（小川弘舟）

（二種）
古筆の臨書は、丁寧に書かれた作品が多く見られた。創作の美しい作品と、勉強をと願う作品の差が大きい。月例などで研究して下さい。（奥田瑞舟）

楷書 創作

恵雅 板橋雅邦

一番風雨催寒食千
里鶯花想故園

恵雅書

行書 集王聖教序 臨書

易懷貞敏早悟三空之心長
契神情先芭四忍之行

（二種）
孟法師碑は全体的に良く臨書されていました。行書創作となるとかなり個人差があった。やはり楷・行とも日常の古典臨書が必須となる。今後の学

書の成果を望みたい。

（白石和楓）

（二種）
古筆の臨書は、丁寧に書かれた作品が多く見られた。創作の美しい作品と、勉強をと願う作品の差が大きい。月例

（木村東舟）

（二種）
大半の方が丁寧に臨書されておりまし

（小川弘舟）